

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第5学年

【単元名】 私たちのMTO（みんなで作った美味しい）米作り（15時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとの自然のよさや課題を知り身近な環境がよくなるよう、実践し、課題解決のやり方を学ぶ。</li> <li>・活動の中で感じた地域の人々の思いや考えから自分の生き方や将来について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決しようとする課題に対して既習事項を使って考えたり見通したりする。</li> <li>・調べた内容の要点を自分の考えを加えてまとめ伝える相手を意識した方法で表現しようとする。</li> </ul>

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：フナ農法を取り入れながら、それぞれの興味関心を生かしたグループで、お米を育て収穫した。

働かせる見方・考え方：自ら育て味わったお米の美味しさ・よさを多面的に見つめていくこと。

段階	学習活動（時間）	留意点
対象と出合い課題をもち	<p>問い：収穫祭でお米のよさを伝えるにはどうしたらよいだろうか。</p> <p>1 収穫したお米を食べる（2）</p>	<p><b>課題の設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☞ 収穫したお米を食べることを通して、フナ農法で作ったお米のよさを実感する場を設ける。</li> <li>☞ 個々の願いから全体目標をまとめ、ゴールを設定する。</li> </ul>
	<p>2 収穫祭について話し合う（1）</p> <p>3 収穫祭の活動内容を決める（1）</p>	<p><b>情報の収集</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☞ ウェビングマップを作り、収穫祭に招待する方のために自分たちがすることを考え、個々の願いを実現させる見通しをもたせる。</li> </ul>
繰り返し対象へ働きかけ	<p>4 収穫祭に向けて個々の目標を追究していく（7）</p>	<p><b>整理・分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☞ 「わら細工」「新聞」「フナのまとめ」「稲の生長」「試食」など興味別の各グループで追究する場を設ける。</li> <li>☞ 全体への相談が出されたら全員で話し合う場を設ける。</li> </ul>
自分の考えをまとめる	<p>5 収穫祭とまとめをする（4）</p>	<p><b>まとめ・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☞ おもてなしの収穫祭になったかという観点で振り返る場を設ける。</li> </ul>

次単元へのつながり：年間を通して活動してきたことを振り返る。映像・画像・模造紙など、記録をもとにこの一年間の取り組みを振り返り、自分たちの米作りの意味を考える。